



ご挨拶

院長 保坂 征司



新年おめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルス感染症に大きく影響を受けた1年でした。徐々にウイルスは弱毒化し5類感染症への変更も本格的に議論されていますが、感染患者の絶対数が増えれば一定の割合で重症患者も発生するため、特に高齢者や免疫力の低下している方が罹患しないような対策は引き続き必要です。併せて重症化予防目的および集団免疫獲得のためにもワクチンは是非接種して頂きたいと考えます。

また、長期化したコロナ感染症は外出控えによる筋力低下に起因する身体機能低下や、他人とのコミュニケーション機会やストレス発散機会の減少による精神的不安定にも影響しています。さらには診察や健康診断の受診控えも増加し、内服中断による病状悪化やがん早期発見の遅延などにもつながっています。我々徳洲会は理念に「健康と生活を守る病院」を掲げています。

病気の治療だけが医療ではありません。特に高齢化率の高いこの宇和島地域において、病気は治ったものの入院前は普通にできた歩行が不安定になり転倒リスクが高まる方や、身の回りの事が出来なくなる、といった患者様をよく目にします。

コロナ禍を機に一気に発展しているオンライン診療など、医療のIT化を進めつつも我々は感染対策をしっかり行い、医療を必要とする方が安心して受診できる環境を整え、また外来・訪問・通所リハビリテーションや外来での栄養指導なども積極的に介入し、地域住民の皆様の健康と生活を守るべく本年も職員一丸となって邁進していく所存です。

また、本年は徳洲会設立50周年の年です。次の50年で我々が何をすべきか？をしっかりと見据え、グループ一丸となって、いつでも・どこでも・誰でもが最善の医療を受けられる社会、の実現を目指して頑張っていきたいと考えています。

最後に、皆様にとりまして本年が幸多き年でありますようお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。



看護部長 梶原 優子

新年あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

数年ぶりに地元に戻られた方と、家族水入らずのお正月を過ごされた方も多いのではないでしょうか。コロナワクチンの3回目接種が進み、観光など人流は増加傾向にあります。しかし、病院では昨年の第7波・第8波の影響から感染予防対策を緩めることができず、面会禁止や健康チェック等を引き続き行っております。患者様やそのご家族様におかれましては、面会ができないことでご心配やご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

今年当院は20年目に突入しました。干支であるうさぎは、飛び跳ねる姿から「飛躍」の象徴だそうです。コロナの流行で我慢を強いられた3年間でしたが、この間に蓄えたPOWERを使って地域の皆さまから愛される病院として大きく飛躍したいと考えております。

職員一同、地域医療のためにより一層邁進してまいりますので、今年もどうぞよろしくお願いたします。



Uwatoku Guide -ウワトク ガイド-

～地域連携室の紹介～

地域連携室は、医療福祉相談員4名、退院支援看護師3名、病診連携担当2名、渉外1名の計10名で運営しています。

医療福祉相談員は、入院中や退院後の生活や介護の不安、医療や福祉制度に関することなどさまざまな相談を受け、多職種やケアマネージャー等と連携を図り、退院支援看護師は入院時から退院後の生活を見据えた看護や支援を行っていただけるよう、多職種やケアマネージャー等とも連携を図り、退院後も住み慣れた地域で生活が出来るようお手伝いしています。

病診連携担当は、医療機関や福祉施設からの紹介患者さまをスムーズにお受け入れするための調整や他院への受診、転院の調整を行っています。

渉外担当は、地域への活動を行います。近隣の病院・診療所や施設を訪問し、意見交換を行い顔の見える連携を構築しています。

医療・介護についての相談や紹介患者さまの受診や入院の相談など、お気軽にご連絡ください。



医療講演

形を変えてチャレンジ

コロナ禍以降、皆さまのもとへお伺いして講演を行うことがあまり出来ませんでした。今年から、医療講演を10分程度の動画にまとめ、ホームページで公開する試みを始めます。

第1回目は松本修一 副院長による『糖尿病を放置したらどうなるか?』を行う予定です。是非ご覧ください。

